

1章の書き込みの手引き
頭の中にえいがを写しだすようなつもりで、一文ずつ読んでいき
ましょう。

次のようなところに目をつけて書き込みしてみましよう。

① ごんのようすやしたことが書いてある文

← その時のごんの気持ちを思いうかべてみる。

② あたりのようすやけしきが書いてある文

← それを見ているごんの気持ちを思いうかべる

8

ひとりぼっちの小ぎつね…「ひとりぼっち」という言葉から
ごんのどんなくらしがうびますか。

8

→ しだのいっばいしげった森の中にあなをほって住んでいました。
→ どんなけしきがうかびますか。そこは、気持ちいいところだろうか。
それともあまり気持ちの良くないところが

・ 夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。

→ どうして、そんなにいたずらばかりするのだろう。
いたずらがすきなのか。それともほかにわけがあるのだろうか。

・ いもをほり散らしたり…何がおもしろいのだろう。

・ 菜種がらのほしてあるのへ火を付けたり…なぜ、こんなことをする
とんがらしをむしり取っていったり…

・ 二、三日雨がふり続いたその間外へも出られなくて、あなの中に
しゃがんでいました。

→ このときのごんはどんな気持ちだっただろう。なぜ、「しゃがんで
いた」のか。

・ ほっとして…このごんの気持ち
空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。

→ これらのけしきが、この時のごんにはどんなに感じられたら
うか